

都留高生企画、伝統産業の魅力PR

富士急行線 郡内織物彩る

富士急行線で車内を郡内織の飾りで彩った車両が運行されている。都留高と西桂織物工業協同組合、富士山麓電気鉄道が連携して飾りの製作に取り組んだ。富士吉田市内から望む忠霊塔と富士山と桜の共演など、沿線自治体の名所や風景を織り込んだり革力バーを設け、7月末まで運行する予定。高校生は「多くの人に郡内織物の魅力が伝わればうれしい」と話している。

〈小林諒二〉



QRコード
から動画を
見られます



猿橋や忠霊塔など沿線自治体の名所を織り込んだり革力バー
＝富士急行線大月駅

郡内織物を活用した車内装飾は、都留文科大1年の朝田優奈さんと小林朋笑さんが、都留高生だった2025年に企画した。2人は授業の一環で郡内織の歴史や現状を調査し、生産量の減少や若い世代の認知度が低い現状を知った。伝統産業をPRしようと富士急行に提案し、同社の理解を得て準備を進めてきた。つり革力バーの製作は組合が全面的に協力。2人が考えた。朝田さんと小林さんは、地域住民や国内外の多くの観光客が富士急行線を利用することに触れ、「美しい郡内織を見て感動してほしい」と話した。後輩の4人は「実際に生地を触ってもらい、伝統産業の魅力を体感してほしい」と力を込めた。

郡内織のつり革力バーを付けた電車の運行予定は7月31日まで。期間中は大月―河口湖駅間を1日2、3往復する。

た絵柄を基にテキスタイルデザインがデザインし、組合所属の事業者が生地製造を担った。同校3年の大谷紅葉さん、佐藤空音さん、染矢なごみさん、中村優里さんの4人がつり革力バーに仕立てた。つり革力バーの絵柄は4種類。富士吉田市の新倉山浅間公園の忠霊塔と桜、西桂町を流れる桂川で舞うホタル、大月市の猿橋周辺の紅葉、富士五湖に映えるダイヤモンド富士と羽を広げる鶴を描いた。4月に大月駅で装飾作業があり、学校や組合関係者らが参加。3両編成の電車にある約400本のつり革に力バーを取り付けた。